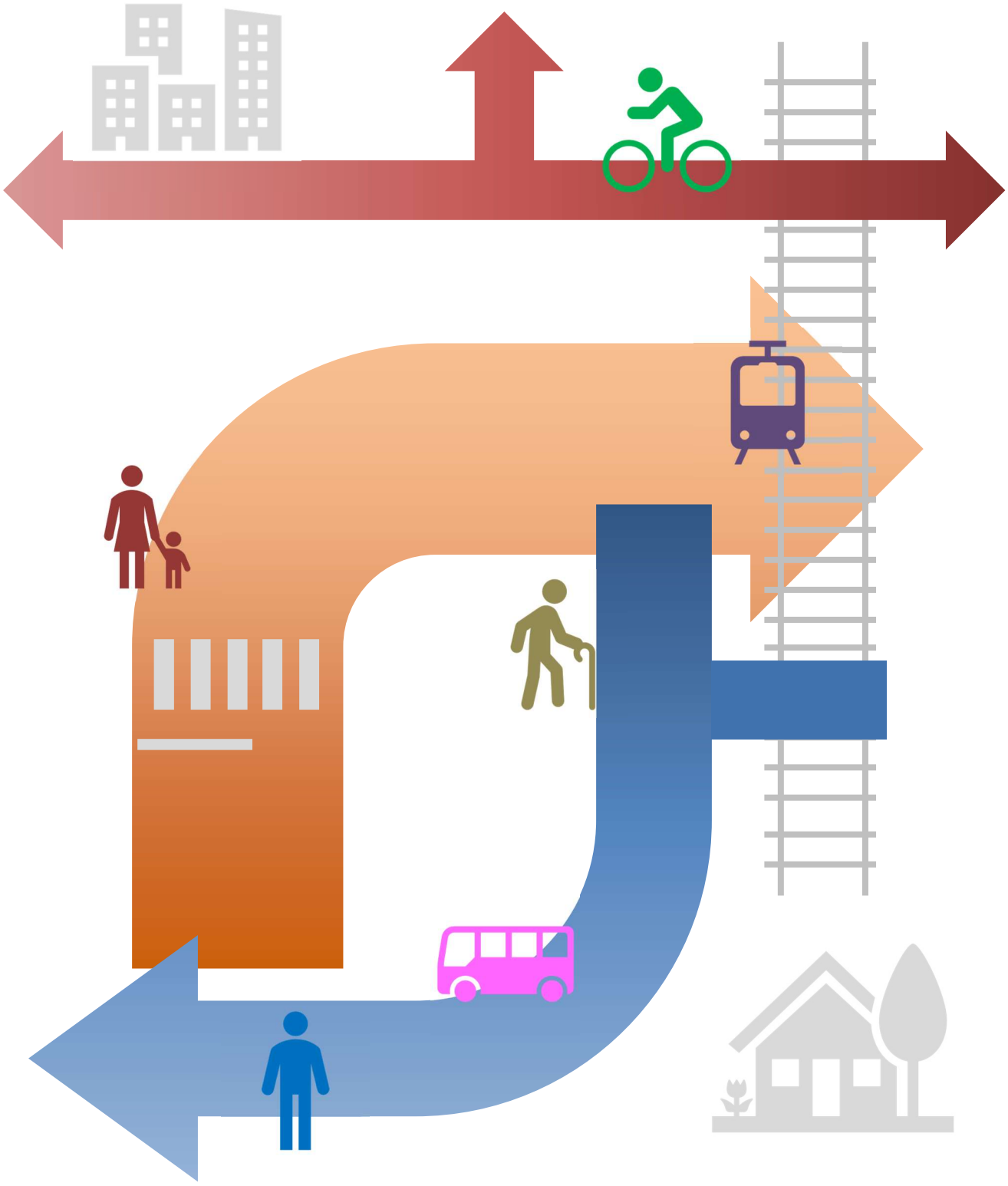
熊本大学工学部

土木計画学研究室

10 周年記念誌



目　　次

1.　熊本大学土木計画学研究室前史（安藤 朝夫）　1

2.　四半世紀を越えて（朝倉 康夫）　4

3.　溝上研究室 10 周年を祝して（黒田 勝彦）　6

4.　10 周年おめでとうございます（福永 卓）　9

5.　100 万円進呈します（浅井 加寿彦）　10

6.　祝！社会基盤計画学研究室 10 周年（中嶋 康博）　12

7.　計画研の履歴（柴田 久）　14

8.　溝上研の愉快な仲間たち（竹林 秀基）　17

9.　社会基盤計画学研究室設立 10 周年に寄せて（柴木【坂本】 淳子）　22

10.　計画学研究室 10 周年記念誌寄稿文（牧野 慈）　25

11.　溝上研究室創設 10 周年おめでとうございます（前川 友宏）　28

12.　社会基盤計画学研究室設立 10 周年に寄せて（城島 玲子）　31

13.　社会基盤計画学研究室 10 周年に寄せて（久保 智規）　33

14.　溝上先生、研究室 10 周年おめでとうございます（池田 香）　36

15.　研究室の思い出（府内 春奈）　38

付録　溝上研データ　40

熊本大学土木計画学研究室前史

東北大学大学院情報科学研究科　安藤 朝夫

溝上章志先生が熊本大学に赴任されてから、11 年目を迎えられたことをお慶び申し上げます。この機会に計画学研究室の前任者として、熊本大学における計画学の変遷を少し振り返ってみたいと思います。

熊本大学において、旧工業専門学校以来の伝統を持つ土木建築工学科が分割され、コンクリート工学・土木構造学（のちの橋梁工学）・交通工学・水工学の 4 講座から成る土木工学科として発足したのは 1955 年 7 月のことである。「交通工学」という講座名は当時としては画期的だと思われるが、実は土質工学を含む 5 講座で申請したものの、交通工学しか認められなかった経緯があったと伝え聞く。結果的には看板のみ交通工学で、内容は土質工学の研究室が設置されるに留まった。

しかし 1957 年には、故・佐々木綱先生が講師として赴任され、熊本大学における計画系研究室の基礎が造られることになった。1960 年代に入ると、一部の大学において土木計画学の講義が開始されたが、熊本大学も立派に先頭集団に入っていたと言えよう。しかし佐々木先生は僅か 2 年で京都大学に戻られ、それから 1983 年に筆者が赴任するまで、実に 24 年間に渡って計画系研究室不在の時代が続いた。

その間にも計画学教育の重要さに関する認識は高まったため、土木計画学関連科目は開

表 1　1983 年度の計画系カリキュラム

	前期	後期
1 年		**測量学第一②** 測量実習第一①
2 年	測量学第二② 測量実習第二①	
3 年	土木計画学第一(2)	**土木計画学第二**(2)
4 年	**交通計画学**(2) 都市計画(2)	
修士		**土木工学特別演習**(2)

表 2　1993 年度の計画系カリキュラム

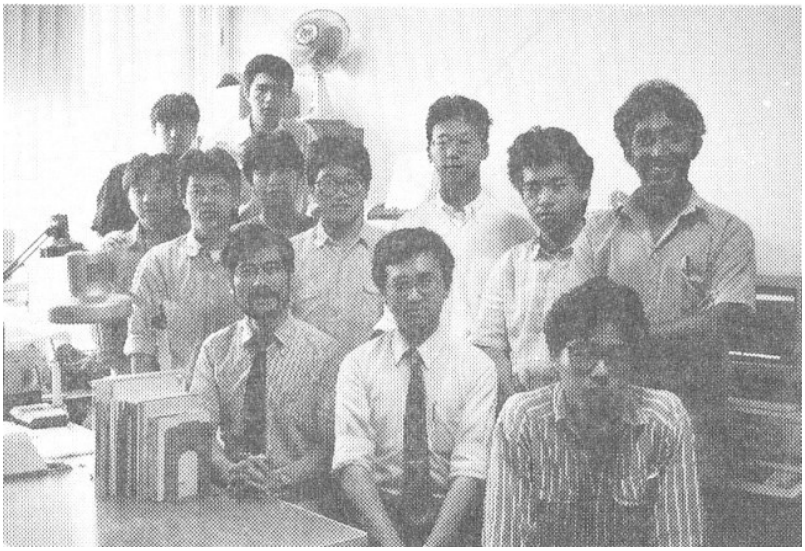
	前期	後期
2 年	測量学② 測量実習①	土木計画学第一 及び同演習③
3 年	応用測量学② 交通計画学(2)	都市地域計画学(2)
4 年	土木計画学第二(2)	
修士	土木計画学特論(2)	土木経済学(2)
博士	都市システム論(2)	

講されたが、何れも計画を専門とはしない教官が担当していた。1983 年時点の、土木系学科（土木工学科・環境建設工学科土木コース）の計画系カリキュラムは表 1 のようであった。当時は実務教育としての測量学が極めて重視されていたことがわかる。太字は当時の筆者担当科目であり、大学院レベルの計画系科目はカリキュラム上存在しなかった。

1955～56 年度を第 1 期計画学研究室とすると、1983～93 年度は第 2 期計画学研究室と呼ぶことができる。その前半は橋梁工学講座に間借する形であったが、博士(後期)過程設置に伴う改組（大講座化）を経て、1988 年度からは組織上も社会基盤計画学研究室として独立することになった。1991 年には京都大学から黒田勝彦教授、1992 年には山下智志助手を迎え、全盛期を迎えることになった。表 2 に 1993 年度の計画系カリキュラムを掲げるが、年度前半の計画学研究室の陣容は教授 1・助教授 1・助手 2・技官 1 の職員 5 名体制となり、測量系 3 科目を除いて全て計画系教官による担当が可能となった。

しかし第 2 期計画学研究室の隆盛は長くは続かず、1993 年 10 月に黒田教授、1994 年 1 月に山下助手、1994 年 4 月に安藤と、立て続けに 3 名が熊本大学を去ることになり、1993 年度から助手に就任していた柿本竜治助教授と内田隆一技官（現・福山コンサルタント）による留守番体制に突入した。なお第 2 期計画学研究室は、1995 年 3 月までの 12 年間に学部 48 名、修士 13 名、博士 3 名の卒業生を輩出したが、この間、研究室に在籍した学生は延べ 54 名を数える。

幸いにして翌 1995 年度からは、九州東海大学から溝上章志教授を迎えることができ、第 3 期計画学研究室が発足する運びになった。以降の研究室の隆盛は皆様ご承知の通りである。



土木学会論文集 IV-9（1988.7）に掲載された研究室の集合写真。当時の在籍者は学部 4 名，研究生 1 名，修士 4 名，博士 1 名，職員 2 名。

計画学の研究対象は広く、交通工学・交通計画に留まらず、景観・コミュニティ計画から国土計画・地球温暖化の影響評価に至るまで様々な問題に対処する必要

があるが、その全てを 1 研究室でカバーすることには限界がある。法人化の結果として、国立大学においても職員・学生の流動性は益々高まることが予想されるから、今後は自分の興味に応じて、大学院進学時などに大学を移動するのが普通になる時代が来るものと思われる。

土木計画学の研究・教育において、熊本大学が大学間競争を乗り越えて、九州の中心的存在であり続けることを祈念すると共に、計画学研究室の出身者が、熊本県・九州全域のみならず国境や分野を越えて、多種・多様な計画業務に重要な貢献をされることを期待したい。

※本稿執筆に際して、熊本大学三十年史(1980.7)、工学部学生便覧(1983)などを参考にしました。

四半世紀を越えて

神戸大学大学院自然科学研究科　朝倉 康夫

溝上先生研究室の 10 周年、おめでとうございます。この間の学術活動と社会でのご活躍に心から敬意を表します。

溝上先生とはかなり長い付き合いになります。若かりし頃ということになりますが、ほとんど同じような時期に交通ネットワーク研究のテーマを勉強しはじめたご縁で、加藤晃先生が中心となってまとめられた 18 回土木計画学講習会のテキスト「交通ネットワークの分析と計画」（昭和 62 年（1987））のお手伝いをさせていただいたのが最初の共同作業だったと記憶します。その後、交通ネットワーク研究会(TNSG、 Transport Network Studies Group)を立ち上げ、年間数回の勉強会をやっておりました。その成果は、先のテキストの 10 年後に松井寛先生が中心となってまとめられた「交通ネットワークの均衡分析」（平成 10 年(1998)）に結実したといえるでしょう。このテキストをきっかけとして、わが国の道路交通計画の実務世界でもようやくネットワーク均衡配分が使われるようになりそうですが、昭和 62 年のテキスト刊行から 20 年も過ぎてしまっています。均衡配分の例に限らず、新しい技術や考え方を導入するのに要する時間を短くしないと、我々の世界は世の中から（グローバルにもローカルにも）相手にされなくなることを懸念します。

グローバルな活躍といえば、溝上先生が英国・ケンブリッジ大学に滞在されていたのは 1990 年でした。交通ネットワーク研究だけではなく、より広い視野に立った研究テーマへの展開を求めておられたようでした。そういう姿勢は今でも常に感じます。わたしがロンドン大学での在外研究の機会を得て英国へ到着したのと入れ替わりに帰国されたので、生活必需品の車（黄色のビートル号）、電気炊飯器、大量の文庫本などを頂戴しました。飛ぶようなエンジン音のするビートル号は、かなりの運転技術？がないと乗りこなせない愛すべきじゃじゃ馬でした。常時エンジンオイルにも気を使っていましたが、残念なことにコーンウォールへの小旅行中に寿命が来てエンジンが止まりました。パブからガレージ屋を呼んでもらってエンジンの壊れた車を引き取ってもらいましたが、物を大切にする英国人のことなので、今でもどこかで使われているかもしれません。時間がとれたら、ほんとに

美しい英国の郊外を道路交通視察またはフィールド調査と称するドライブ旅行に出かけたいものでありますね。

溝上先生の研究室とは、1998 年から夏季の泊りがけの合同ゼミをやってきました。わたしが愛媛大学にいたので、四国と九州で交互にやりました。たしか、阿蘇→四万十→阿蘇→久万高原→阿蘇と続いたように記憶しています。研究室を挙げてのビッグプロジェクトでしたが、何と言ってもゼミの花は「溝上・朝倉賞」です。最優秀発表者にわれわれの名前を付した賞と賞金を差し上げてきました。必ず履歴書の受賞欄に書くように、見るヒトが見ればわかるからと言っておりましたが、受賞者諸兄はどうされているのでしょうね。合同ゼミは、お互いの研究室の成果を厳しく議論しあう機会でありますが、学生諸君のやる気を促すのに最高の教育効果があります。ある種の大学対抗戦ですので、通常のゼミや学会発表では得られない高揚感が得られ、またそこでの経験は学生諸兄の大きな自信につながったのではないでしょうか。この種の交流企画は広く流行させる価値があります。

溝上先生はわたしにとって最も長く deep に交流しているヒトでありますが、先生の研究態度の誠実さにはいつも頭が下がります。気がつくと、お付き合いも四半世紀を超えそうになっていますが、これからもますます刺激しあって、充実した教育・研究活動を続けたいものだと考えております。よろしくお願いします。

溝上研究室 10 周年を祝して

神戸大学工学部教授　黒田 勝彦

溝上先生、研究室に教授として着任されてから 10 年が過ぎたとのこと、お祝い申し上げます。熊本大学に私が赴任したのは平成 3 年 4 月ですが、わずか 2 年半の後、平成 5 年 10 月に再び神戸大学へ転勤となりました。神戸に転勤してから 12 年、いつの間にか私も来年の春に定年を迎える歳になりました。熊本大学時代の柿本助手、山下助手、それに内田技官には大変お世話になりました。また、生まれて初めての九州の地でもあり、西も東もわからない私にとって、九州東海大学におられた渡辺先生や溝上先生にはいろんな面でサポートして頂き随分心強く思いました。当時は未だ私も 48 歳という若さでしたから体力・気力とも充実しておりました。熊本大学の土木を一流大学として全国に認めさせてやろうなどと壮士気分でした。当時は未だ、京都大学に修士の学生を残しておりましたし、熊本大学にも学生を抱えており、着任した神戸大学も学生を抱えるといった状態で、3 大学を飛行機に乗って飛び回っていたことが思い出されます。大学人事の都合で教員が指導途中で転勤というのは学生にとって「エエ迷惑」であったろうことは容易に察せられます。転勤を命じられた（？）本人も「エエ迷惑」でした当時から思っていることですが、一つの職場には 5 年いないと研究や教育が旨くいきません。一人の人材をゼロから育てあげるのは（質にもよりますが）矢張り 5 年は必要です。

ついでながら、一つの職場では 10 年の任期制で継続か転勤かを決めるルールがあれば理想的と思います。人間 10 年も「同じ所にいるといろんなシガラミやアカが溜まるものです。

さて、私にとって、熊本転勤は研究生活の上での文字どおり「転換」になりました。1 年のうち 200 日程度飛行機に乗って移動している間に、航空行政や航空経済・空港計画は全く日本では進んでいないと感じて「航空市場」の勉強をまともに勉強するきっかけとなりました。日本では、航空市場の経済分析と空港計画は全く別の分野として取り扱われていました。同じことは海運・港湾についても言えました。航空市場での空港整備・運営政策、海運市場での港湾整備・運営政策という面からのアプローチは熊本大学に転勤したからこそ研究のきっかけが出来たと思っています。その集大成の一部は今回バークレイの

Kanafani 教授との共著で纏めました。エルゼビア出版から出ましたので是非ご参考下さい。

ところで、この十数年を振り返りますと、熊本転勤の直後、平成 3 年 6 月に雲仙普賢岳の爆発で一生経験出来ない災害を目の当たりにしました。白塗りの新車を京都から持って行ったのに車が灰を被って真っ黒になるという惨めな思いを致しました。神戸へ転勤する直前の平成 5 年 9 月には阿蘇の風倒木で有名な台風 19 号に遭遇致しました。丁度大分で開催される「新国土軸構想委員会」に出席の途中でバスで阿蘇山頂に着いたころ台風でストップしました。本渡や天草のコンクリートの電柱が根本からポッキリ折れて倒れていたのを今も鮮明に記憶しています。このとき、懐中電灯や蝋燭の備え、食料・水の備蓄の大切さを教わりました。神戸へ転勤した直後の平成 7 年 1 月には空前の阪神・淡路大震災に遭いました。このときは熊本の経験が活かされて、風呂には水を蓄えていましたし、懐中電気やローソク、飲み水も備蓄しておりました。水は近所の方々に配り感謝されました。経験をその後に活かす重要性はよく言われますが、実践するとなるとなかなか出来ないものですが、神戸の震災時の調査や復興計画、その後の危機対策等の委員会や研究会に随分役に立ちました。「体験の重要性」は言うまでもありません。人間、災害だけでなく、「いろんな体験」を歳と共に積み重ねるものです。「亀の甲より年の功」とはよく言ったものです。

最後に、これから研究を始めようとしている方々や自身の研究の脱皮を目指しておられる方々に私のアドヴァイスが役立てばと思い、老婆心ながら、以下のことをお贈り致します。

①研究課題は常に「世の中これで良いのか？」という猜疑心や不満から発見できます。そのためには「世間を見る目」を日頃から養って下さい。世間を見る目は教養が必要です。教養は本を読めば誰でも手中にすることが出来ます。学生諸君も研究者も自分の専門や教科書以外の本をたくさん読んで下さい。

②研究を進展させるには「人の輪と和」が重要です。人にはそれぞれ備わっている資質や能力が異なります。多くの人の手助けで出来そうにない研究も成果を挙げることが出来るものです。そのためには、日頃から億劫がらずに「ヒューマンネットワーク」の構築に努力して下さい。

③ＰＨＰ文庫「部下の心得」、「上司の心得」を是非読んで下さい。人から教わる教わり方、人を育てる育て方について参考にすべき事がたくさん書いてあります。いつも良い部

下で良い上司でありたいものです。これは上記③とのからみでとっても参考になります。

④故佐々木教授から若い頃、「黒田君、ホームランを打ってやろうなんて思うな。バントヒットでええ！あかんときはフォワーボールでも一塁へ出たらええ！」と変な（？）激励を受けたこと覚えております。そのとおりやナーと今になれば思われます。世間からの評判や仲間内の評判を気にせず自分がこれや！と思うことを進めるべきです。でも決して独りよがりにならないで下さい。しかし、人の評判も勝ち取るぐらいの気構えだけは忘れないで下さい。

⑤阿部謹也著「世間とは何か（講談社文庫）」の一読をお勧めします。日本の学会を含めた世間の解説書です。私達は「いろんな世間」の中で生きています。欧米の社会と日本の世間との違いを知っておけば、「日本流の合意形成」の理論の進むべき方向が見えて来ます。最近の若い研究者が欧米流の「合意形成理論」を一生懸命輸入していますが、何とも危なげに写ります。

老婆心で言わでもがなの事どもを書いてしまいました。一老学徒の戯言と読み流されるだろうとも予想しつつ筆の進むままに書いてしまいました。

溝上研究室は全国でも有名ブランドの一つになっていると思います。全員力を合わせて益々「身を立て名を上げて」下さい。決して奢ることなく日々努力を続けられんことをお祈りしつつ筆を置きます。溝上先生、柿本先生絶え間ない歩みを期待しております。

平成 17 年 9 月 12 日

10 周年おめでとうございます

熊本市役所　福永 卓

熊本大学工学部の社会基盤計画学研究室の設立 10 周年をお祝い申し上げます。

溝上先生におかれては、熊本都市圏の都市交通に関する委員会や講演会などにおいて、日頃より、貴重なご意見やご助言を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、地元大学として、熊本都市圏の課題にも即した数々の調査研究を蓄積されてこられた研究室の皆様のご努力に対し、深く敬意を表します。

さて、熊本市においては、九州新幹線開業を間近に控え、国、県、県警、交通事業者と連携して熊本都市圏都市交通アクションプログラムを公表し、道路交通や公共交通などに関する各種の施策・事業に取り組んでおります。

しかし、年率 3%の減少により最盛期の 4 割以下の利用者数となったバス事業の経営難に見られるように、特に昨今の公共交通をめぐる状況は非常に厳しく、行政による基盤整備などの支援や交通事業者の自助努力だけでは、公共交通ネットワークの現状さえ維持しにくい状況となっています。

高齢社会を迎え、都市生活の共通の資産として、公共交通ネットワークを維持・充実していくためには、住民や企業自らが、過度に自動車交通に依存した生活や交通行動を見直し、自覚的に電車やバスを利用するということについても、真剣に考えていただく時期にきているという気がいたします。

今後、行政は、限られた財源の中での道路交通空間の最適な整備と維持・管理をし、交通事業者は、厳しい経営条件の中での安全快適な運行に努め、住民・企業は、環境や将来の都市生活を考えた自覚的な交通行動を行うというように、それぞれに期待される役割を自覚し、パートナーシップを確立しながら、使いやすい充実した都市交通の基盤をつくり、将来に残していきたいものです。

こうした点から、この分野の研究成果を、行政、交通事業者だけでなく、住民・企業に対しても、積極的に提案・啓発されておられる溝上先生をはじめ研究室の皆さんのご活躍に期待いたしますとともに、今後の研究室のますますのご発展をお祈り申し上げます。

100 万円進呈します

社団法人システム科学研究所　浅井 加寿彦

ちょっと気を引くようなタイトルで、社会基盤計画学研究室設立 10 周年記念誌には相応しくないかもしれませんが、このタイトルに目がくらんで読み始めた将来有望な研究室の方には最後までお付き合い下さい。

100 万円の話の前に、社会基盤計画学研究室と当システム科学研究所が時折々関係があったことの話をさせて頂きます。

社会基盤計画学研究室の出きるず一っと前の昭和 32 年に、我が研究所の前会長で交通工学の世界的研究者であった佐佐木綱先生が熊本大学で講師をされていたのでした。当時、交通工学を教える先生は日本にはまだ数少なく、そのような時代に熊本大学に招き入れられるとは、非常に先見の目を持った大学ではなかったのかなと敬服する次第です。

その後、研究室とのお付き合いは、溝上先生と平成 8 年から始まりました。建設省（現・国土交通省）奈良国道事務所から、奈良県に高速道路が出来たら奈良の観光はどうなるんやと面白い話が飛び込んできたので、朝倉先生（当時、愛媛大学助教授、現在、神戸大学教授）に相談をしに行ったところ、そりゃ観光と交通を研究している溝上先生だということでお願いしたところ、即 OK を頂き調査に参加して頂いた次第でした。2 年間、大掛かりな調査をして（あれほど大規模な調査は最近でも見かけませんね）、いろいろと面白い成果を出して頂きました。しかし、溝上＆朝倉先生の意見を取り入れていたら、当初よりはお金は大幅に増えるわ、溝上先生のペースにはついて行けないと思うほど速いかと思えば、アレアレと思うこともあり、冷や汗もんでした。でも非常に勉強をさせて頂いたし、思い出に残る調査でした。現在も、溝上先生の得意分野の一つである均衡配分において国土交通省近畿地方整備局及び阪神高速道路公団からの受託調査研究業務で、知恵を拝借しているところです。このように社会基盤計画学研究室には折々に救援を求めており、当研究所の熊本研究室と勝手に思っていますが、当社団が連携をさせて頂ける貴重な数少ない研究室の一つであり、かつ交通工学の分野では九州一のポテンシャルを持っている研究室と認識しております。

そろそろ 100 万円の話をさせて頂きますが、世の中おかしなもので、何の縁もゆかりも無いと思われていたもの同士に、因縁めいた話が出てきたのが次のことなのです。

冒頭で申し上げた当社団の前会長の佐佐木先生が昨年末に亡くなられたのでしたが、その前々会長の故・米谷栄二先生（日本の交通工学の先駆者）のお二人を顕彰すべく今年 5 月に『米谷・佐佐木賞』を創設したのでした。当然、受賞者を選ぶのには交通工学や交通計画のことを知り尽くした選考委員が必要で、そのお一人として溝上先生になって頂いたのでした。委員になって頂く話は僕が指名したわけでなく、我々と先生の関係を全く知らない会長が独自に指名されたのでした。このことをはじめ社会基盤計画学研究室およびその前身も含めいろいろな場面で不思議なつながりが感じられます。

前置きが長くなりましたが、『米谷・佐佐木賞』は優れた交通計画・交通工学の研究者か実務者に送る賞と優れた学位論文に対する賞の 2 本があり、それぞれ 100 万円（！）の奨学金を出させて頂くことになりました。ようやく 100 万円が出ましたが、縁故の深い社会基盤計画学研究室には是非取って頂きたい、いや必ず取らねばならない賞ではないかと思っております。受賞者への奨学金は、勉強に使うのも良し、次の 20 周年の資金源にするのも良し、はたまた夏休み勉強合宿への資金寄付にも良しと、活用のし甲斐は十二分にありますので、どしどし応募して下さい。お待ちしてます。

末尾になりましたが、今後ますますの社会基盤計画学研究室の発展を祈念しております。

祝！社会基盤計画学研究室 10 周年

中嶋 康博

10周年おめでとうございます！溝上先生が熊本大学工学部環境システム工学科土木環境系社会基盤計画学研究室に赴任され10年。研究室の運営等に多くの喜怒哀楽があったかと思いますが、区切りの10年が経過したというとこですね。先日も盛大な10周年記念OB会が催されたこともお聞きしました。これからも20周年、30周年（？）目指して、すばらしい学生達のご指導のほど、よろしくお願い致します。また本10周年記念誌を編纂する際に、お声をかけて頂けたことを大変うれしく思っております。

溝上先生と私が出会ったのは、先生が熊本大学に赴任される前の九州東海大学の時でした。それ以降、「私がいく所に溝上の陰あり！」という感じで、名古屋大学大学院時代、社会人（現在、(財)計量計画研究所勤務）となった現在にわたり、非常にお世話になっております。先生とは、お会いしてからもう10数年が経つことを思うと、時が過ぎるのをとても早く感じます。今回、幸運にも、このような記念誌に私も一筆書いて掲載させて頂ける機会を頂戴しましたので、私の大学生活の中で溝上先生との思い出を書きたいと思います。

私が初めて溝上先生と話をしたのは、1992年夏、大学2年時に、阿蘇で泊まりがけにて行った測量実習の最終日の夜でした。その時は、教師と学生の親睦会（という名のバーベキュ＋飲み会）であり、楽しかった時を過ごしたことを覚えています。その時に、私を含む数人の学生たちは、溝上先生率いる他数名の先生と焼酎をグビグビと飲んでいる時に、いきなり「君たちはもっと勉強しなきゃいかん！4年で卒業・就職ということを考えず、大学院に行くという選択肢もあるから、考えてみなさい。」という厳しいご指導を頂きました（別の言い方をすると、あの場の雰囲気からすると「酒の席で上長の方から説教を受けた」ともいうかも？）。当時の私の感覚では、「4年で卒業して就職」という道しか考えていなかったため、「そのような道もあるんだな～。」と酔っぱらいながら、聞いていたことを覚えています。

ただ、その後、研究室を選択するあたりから、私自身が自分の将来を考えはじめ（今、思えば、小さな考えですが)、その際に、合宿のことを思い出して、大学院に進学ということを本気で考えました。当時までの私の人生の中では一番まじめに考え、試行錯誤した時でした。その際に先生にいろいろと相談したことを覚えております。その節は、私が先生の忙しさを理解していないにも係わらず、快く相談に乗って頂き、感謝しております。

研究室時代（当時、私が4年）には、研究に対する厳しい指導はもちろんのこと、当時は、丁度、溝上先生の双子のお子さんの出産があり、奥様がよく名古屋に帰省されていた関係で、先生とは夕飯をご一緒させて頂きました。ある時は居酒屋で溝上先生キープの焼酎（確か、白波だったような。）を飲み干し、またある時は研究室で学生達がゲリラ的に鍋パーティを行った時に先生が飛び入り参加されて食事をした時などが思い出されます。あと、食べ物関連で思い出されることは、研究室にチョコをおいておくと、ひょっこり来て、「これ食べていい？」と聞かれて「いいですよ」という前に「パクッ」と食べちゃうことです（ひょっとしたら、今でもそのようにしているかもしれませんね)。さらに休日に研究室にきていると先生が当時乗っていたパジェロで現れ、「洗車しない？」といって、学生達が（率先して？）洗車をすると、自分は研究室に戻って、自分は洗車しないといったこともありました。もちろん、研究の方もいろいろと厳しく、ご指導を頂きましたが、内容がおもしろくないので、割愛します。

その後、私が大学院で名古屋大学に進学した時、また就職で東京へ上京した現在においても、学会や仕事の関連でお会いした際には、気軽にお声をかけて頂き、大変ありがたく思っております。ただ、アポイント無しで、会社の私の席ところにいきなり来て、「飯行く？」というのは、ちょっと、控えて頂ければと思うのが最近の私の希望です。（事前にアポイントがあれば、時間を空けておくので。)。結構、私の席の周りに座っている人たちが、「なんだっ！？何が起きたんだ？」という顔でみていますよ。とはいうものの、先生が東京へご出張され、お時間が取れるときには、いつでも声をかけて頂ければと思います。私も熊本へ行く機会があった際には、先生にご連絡したいと思います。その際には、是非、楽しい食事に行きましょう！

最後になりますが、先生のご活躍を学会誌や雑誌等にて拝見する度に、私自身もがんばらなければという気持ちになります。溝上先生の益々の活躍を祈念すると共に、私も先生に負けないよう（少なくとも気持ちだけは！）仕事等に励みますので、今後とも、いろいろとご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

計画研の履歴

1 期生（1996 卒/M1998 修了）　柴田 久

この度、社会基盤計画学研究室に溝上先生が来られてから 10 周年を迎えられたということで、誠におめでとうございます。今後これを機に、熊大計画研がなおいっそうのご躍進をとげられますようお祈り申し上げます。

さて私はその 10 年前、溝上研究室第 1 期生として在学しておりました。現在、私は大学の教員として、その職務を全うすべく教育や研究活動に日夜努力している者ですが、そのせいもあり、10 年という研究室の歴史の重さを深く感じるところです。例えばこれまで仕事上、幾つかの社会活動に参画させて頂きましたが、そうこうするうちに計画研ＯＢである、つまり私にとっていわゆる後輩の方達が第一線で奮闘・活躍している現場に遭遇することがだんだんと増えています。10 年という年月とともに輩出された学生 81 名の数とそのがんばりに、1 期生として身が引き締まる思いです。「まちづくり」などの現場におりますと、いかに人と人との繋がりでもって、良い仕事ができるかどうかも決まるように感じられ、腹を割って話せる信頼関係のようなものを見いだせるかどうかは大きな課題です。特に仕事上の付き合いからそこまで発展させようとすると、だいたい一つのプロジェクトは既に終わっているようなこともしばしば…。また我々社会基盤整備を主な課題として働く世界において、人が一人でできる仕事は本当に小さいと痛感させられます。同じ研究室という一つの「繋がり」ができる仕事は大きく、もっと言えば、そのような大きく「いい仕事」を残していくために設置された集団・組織として「研究室」は存在すべきものなのかもしれません。10 周年を迎えた研究室のこれからが、そのような大きな仕事に向かう勝負の時期とも考えられ、ＯＢ一同、共にがんばっていきたいものです。

ところで昔話に花を咲かせますと、現在、工学部 8 号館の 3 階にある学生の研究室は 10 年前机が積み上げられていた状況でした。要らない机を地下室に運び出し、きれいに拭き上げた机を 8 つほど並べたのが最初だったと記憶しています。まだカーテンすらなく、殺風景だったのもよく覚えています。しかしながら、研究室に自分の机があるというのは本当に嬉しく、用もなく（本当は論文を書くという重要な用がありながら…）ただ楽しく心

地よい居場所として研究室を見ていた自分が懐かしく感じられます。私は交通や土地利用をテーマとする計画研の中で、一人「景観」を勉強したいと言い出す異端児だったのですが、そのような学生を嫌な顔一つせず、快く指導してくださった溝上先生には本当に感謝しています。一方、ご存じの方も多いかもしれませんが、計画研は勉強以外にもスポーツの盛んな研究室でした。私が在学している頃にはよくボーリング大会や体育館を借りきってバレーボールなどを行っていました。そこで侮れなかったのが溝上先生の運動神経…。特にあのジャンプ力と機敏な動きは本当に忘れられません。チーム対抗戦ではよく苦い経験をさせられました（ちなみに柿本先生はご存じのように格闘技系がお得意で、技をかけられていたのは誰だったっけ？（笑））。

最後になりますが、近々、8 号館から 1 号館へ研究室が新しく移設されることを耳にしました。私は専門柄、景観や空間のことを考えることが多いのですが、その際、その土地や場所の歴史を調べることがよくあります。今、目の前に広がる景観や空間がこれまでどのような経緯を踏まえて存在しているのかを「履歴」という言い方で捉え、考えていきます。留意しておかなければならないのが、その場所や土地が全く新しい空間へと改変されたときに、人はその場所の履歴を探す手がかりを失い、それまで持っていた愛着や記憶を無くしてしまうということです（昔住んでいた故郷に久々戻ってみると、よく遊んでいた広場が高層マンションの林立する地区に変わっていて、自分が昔どの辺で遊んでいたかさえ分からない時、ひどく寂しい思いをしたような経験を皆さんはお持ちではないでしょうか）。古くなった空間や場所を新しく創造的に生まれ変わらせ、そこから始まる歴史も勿論あります。しかし、上記の考え方からすれば、同じ履歴書の中に書き込める成長の変化か、全く新しい別の履歴書として書き始めるかは、少々大袈裟かもしれませんが、その場所に生きていた人の人生にとって、現在の自分を語るかけがえのない時間の拠り所を失わせることになるかもしれません。ここで第一期生である私から研究室在学生の方達に勝手な期待を述べ、本小稿を終わりにしたいと思います。是非、研究室が移設した際には、これまでの研究室の履歴を感じられる「仕掛け」について考えて頂きたい。それは触れることのできる目に見えるものなのか、それとも目には見えないもの（例えば研究室に受け継がれていく先生を囲む学生らの気持ち、雰囲気のようなもの）なのか、それは分かりません。いずれにせよ、それは現役研究室生の方が決められる（創られる）選択肢であり、研究室

が進化し続ける上での大きな可能性を含むものでもあると思います。古くさい徒党精神ではなく、新しい知を生み出す集団の「結節点」として、研究室が存在し続けることを心から祈っています。

溝上研の愉快な仲間たち

2 期生（1997 年卒業/M1999 年修了）　竹林 秀基

私は高松工業高等専門学校卒業後、熊本大学の 3 年生に編入し、その後、社会基盤計画学研究室に入ったので、大学院での 2 年間と合わせると、4 年間の熊本生活のうち 3 年間は研究室のゆかいな仲間たちと過ごしました。だから、大学の思い出＝研究室の思い出と言っても過言ではありません。

入った当時の溝上研の学生は、先輩の柴田さんと松山さん（沢さん）、同級の柴木君（柴ちゃん）、姫野君（うめさん）、椛島君（かばぶー）、亀山君（かめちく）、首藤君（シュットゥットゥくん）、河内君（こうちゃん）、盛坪さん（ミカリン）と私の計 10 人でした。

溝上研での思い出を書こうとすると、ソフトボール大会優勝、研究室での阿蘇旅行、愛媛大学との合同ゼミ、遠歩出場、柿本ゼミでのうめさん逆ギレ事件、柴ちゃんのピンポンダッシュ事件、かめちく強制散髪事件＆ドタキャンなど、いろいろありすぎて何を書こうか迷うところですが、ここでは、社会人になった今になっても引き続き活動を続けている、「馬並みハイウェースターズ」についてご紹介したいと思います。

「馬並みハイウェースターズ」が結成されたのは、一年先輩の柴田さんの結婚式の時です。披露宴での余興を命じられたことがすべての始まりでした。溝上先生ご夫妻も仲人として出席している中、中途半端なことはできないと研究室メンバーで毎晩作戦会議を行いました。そこで出た結論は、当時流行していた「だんこ三兄弟」の替え歌をすることでした。さらに、「全身白タイツ（メンバーの中では戦闘服）で身を固めて、曲が終われば応援団をやろう。」、「応援団には旗が必要。」、「旗の代わりに組み体操のサボテンをやろう。」という具合に、ゼミの時以上に白熱した議論が交わされました。こうして、メンバーが結婚するときは、披露宴で全身白タイツに身を固め、みんなで替え歌を歌い、応援団としてエールを送る「馬並みハイウェースターズ」が誕生したのです。

全身白タイツの調達のために、熊本市内の雑貨屋（ブルドック）やＷＩＮＧ館に行っても、あるのは 1 着か 2 着。メンバー全員のものを一度に集めるのは容易ではありませんで

した。人吉のおもちゃ屋（こぐまランド）に数着あるという情報を全身白タイツ製造元から入手し、車を飛ばして買い占めにいきました。また、溝上研電算室（溝上先生の部屋のとなり）でビデオを撮りながら夜な夜な練習するなど、熱の入れようでした。

写真１　馬並みハイウェースターズ

当日の披露宴では、練習の甲斐あってまずまずの出来でした。特に新郎の柴田家サイドでは非常に受けていたとのことでした。こうして第一回公演を無事に終えることができました。

第二回公演は、当時、広島で働いていた私の結婚式でした。今回はボーカルに柴田先輩（バンドでボーカルをしていて歌がめちゃくちゃうまい）を迎え、柴ちゃんがギターで演奏（下通りで弾き語りをして稼ぐほどの腕）する形式に変更され、課題曲は松田聖子の「赤いスイトピー」。どうしてこの曲に決まったのか不明ですが、歌詞は柴田さんとうめさんが東京から広島に向かう飛行機の中で大笑いしながら書いたそうです（他の乗客からひんしゅくをかうほどうるさかったらしい）。結婚式当日にならないとメンバーが揃わないので、練習も当日のみ。あとから聞いた話ですが、私がチャペルで永遠の愛を誓っている時に、あの広島原爆記念公園で踊りの練習をしていたそうです。公園でスーツを着た男達がギターに合わせて踊っている姿は相当怪しかったと思います。

写真２　ギター柴ちゃん

第三回出演はこうちゃんの結婚式。課題曲はおにゃんこクラブの「セーラー服を脱がさないで」。三回目の公演ということで、メンバーもだいぶ慣れ、余裕しゃくしゃくで出番が来るのを酒を飲みながら楽しみに待っていると、我々の余興の前に、カントリーミュージックで有名な「チャーリー永谷とキャノンボール（間違っていたらごめんなさい）」が新郎

新婦のために曲を披露しているじゃないですか。馬並みハイウェースターズの前にプロのミュージシャンが歌っている。プロのミュージシャンが俺たちの前座？ついに馬並みハイウェースターズもここまで来たかと、勘違いをしたまま、気持ちよく歌いきりました。

写真３ 応援団（団長：柴ちゃん）

第四回公演は、ダンスリーダーうめさんの結婚式。馬並みハイウェースターズ初の東京公演。レインボーブリッジやお台場の素晴らしい夜景が一望できる素晴らしい式場での課題曲は三人娘の「サマーパーティー」。

事前に踊りを練習するため、「サマーパーティー」のＰＶが柴ちゃんから各メンバーに送付されるという力の入れよう。残業で深夜遅くに仕事を終えて帰って「う～～ん。ちゅっ♪ちゅっ♪ちゅちゅちゅ♪サマー～パーティー～♪ちゅっ♪ちゅっ♪期待してるわ～」の音楽に合わせて踊りを練習している自分に対して、「ほんと馬鹿だな～」と思いながら、ほかのメンバーも各自、夜な夜な練習していると思うと、「やっぱり馬鹿だな～」とただただ思うばかりでした。そうは言っても、姫野君のためになんとしてでも公演を成功させなければとの使命感から日々練習を繰り替えしました。もちろん、嫁や子供にはその姿は見せられません。

課題曲が「サマーパーティー」だから、「サマーパーティ。。。」・・「サマーパー。。。。。」・・・「サマーパンティー！」バンザイ！バンザイ！ということで、今回は全身白タイツの上にパンティーをはき、それを最初はエプロンで隠しつつ、最後にはパンティーを脱いで、新郎新婦にプレゼントをするなど、悪のりがエスカレートしてしまった公演でした。

写真４ パンティーをプレゼント

第五回公演はギターリスト柴ちゃんの結婚式。お相手は溝上研のアイドル、一年後輩の淳子ちゃん。二人は研究室のゆかいな仲間たちにバレないように付き合っていたつもりが、数々の証言や物証により結果的バレてしまい、結局知ら

なかったのは溝上先生だけだったとのこと。溝上先生ご夫妻が仲人ということで公演にも力がはいりました。課題曲はウルフルズの「明日があるさ」を替えて「テッシュがあるさ」。今回から強烈キャラ沢さんを迎え、さらにパワーアップ。沢さんは　巨大〇〇〇を想像させるスキューバー用の空気筒の先に、コンドーム 24 個（2 ダース）をぶら下げて振り回すという離れ業をやってのけました。

写真 5　応援団（団長：沢さん）

第六回公演は踊りのキレが良いシュットゥットゥくんの結婚式。課題曲は日立グループの CM 曲「この木なんの木」。歌詞は結婚式当日に、大分への移動中に各メンバーが歌詞案をメールで送付し、それを集約しながらつくるという方式で作ったら、なかなか出来が良くて、会場からアンコールがでるまでの大盛況。馬並みハイウェースターズの絶頂期と言えるでしょう。

第 7 回公演は競馬大好きかばぶーの結婚式。課題曲は好評だった「この木なんの木」。若干曲をアレンジして、アンコールを目指しての公演。余興控え室までが準備されていて若干タレント気分（勘違い）。ダンスリーダーうめさん不在のなか、踊りはいつものをやればいいと 10 分ほどの練習で本番に臨みました。本番では、踊りはバラバラのグタグタ、ギターも途中で演奏ストップ。ボーカルの柴田先輩がアカペラで歌いきり何とか終了。前回の公演でアンコールまでもらったことで、若干天狗になっていたのかもしれません。次回、おそらく最終回となる亀山公演では、入念な打ち合わせと猛練習、そして、これまでにない演出で締め括ろうとメンバーみんなで誓い合いました。

溝上研メンバーは、会うと学生時代の乗りに戻れる貴重な存在であり、人生の大切な宝物の一つだと思っています。家庭を持っても家族ぐるみの付き合いがあり、つい先日も柴

木一家と私の家族でデイキャンプに行ってきました。こうした出会いを与えてくれた溝上先生、柿本先生はじめ研究室のメンバーに感謝しています。

また、肝心の研究の話は全くふれませんでしたが、研究室で勉強したことは社会人になっても、ふとした場面で意外と役に立っていて、その点についてもご指導いただいた溝上先生、柿本先生に重ねて感謝するとともに、社会基盤計画学研究室の更なるご発展を心より祈願いたします。

デイキャンプ（左から竹林親子（ゆうま・すずと）、柴木親子（かの））

社会基盤計画学研究室設立 10 周年に寄せて

3 期生（1998 年卒業）　柴木（坂本）　淳子

社会基盤計画学研究室の設立 10 周年を迎えられ、誠におめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

私は 2 年間在室しており、個性あふれる面々に囲まれ、とても楽しい日々を過ごさせてもらいました。研究に勤しんだかどうかは甚だ疑問で、その点では全く研究に貢献しておりませんが、飲み会やその他の行事には楽しく参加させてもらいました。在室中は、土木という男気あふれる空間において、当時は喫煙率がものすごく低く、研究室内の空気がとてもクリーンだったことに感動したのを覚えています。

卒業後は、当時の建設省に入省し、国土交通省を経て 5 年間在籍しました。最初は河川に、次に道路と 2 分野の職種を経験しました。河川の時は防災担当で、大雨や地震の時は夜勤があったのですが、女性だということが理由で上司から夜勤の許可がおりず、でも同僚からは女だから夜勤しなくていいなんてずるい、などと嫌味も言われ、だったら最初から防災担当に配属するな！と上司に噛み付いた青い過去もありますが、実際は堤防を作るだけではなく、環境保全やまちづくり、NPO 活動など、少し遊びのある仕事も楽しくやらせていただきました。就職してから、精神的にすごく鍛えられた、強くなったなと我ながら思います。何よりもここでとても良い人間関係を築け、転勤が決まった時に学校の卒業と同じぐらいに号泣したことを思い出します。

道路の事務所に移ってからまず感じた事は、河川と道路の仲の悪さです（苦笑）。でも両者とも、自分の仕事にとても誇りを持っていて真面目に取り組んでいるということの裏返しなのだなと今は思います。道路は河川よりも地域住民や地域の生活により密着した事業で、地域からの注目度が高い分、地元説明会や住民からの問い合わせに多くの時間を割かれていました。道路は、目に見えて道路が供用されていくので、達成感という意味では河川よりもあったように感じます。

その後は夫の転勤で辞職し、現在、第 2 子の出産を間近に控え、毎日忙しい日々を送っています。辞職にあたっては、ものすごく悩みました。自分の人生、子供の生活、家族の

ありかたなど、何度も何度もこれでいいのかととても考えました。でも、最後は学生時代に溝上先生が、「臨機応変に」と助言してくださったのを思い出し、前向きに辞職届を提出することができました。辞表を提出すると不思議なことに、心がすごく軽くなりました。知らず知らずのうちに、仕事のストレスを感じていたのだと思うと、主婦という肩書きも悪くないなと思う今日この頃です。でも、子育て主婦には始終業時刻もないし、昼休みもないし、土日祝日もないということを、お父さん達、お忘れなく！

ちなみに今のストレス解消法は、ものをつくることです。子供と作る工作でもいいし、料理でもいいし、一番好きなのは娘の洋服作りです。娘が「お母さんの作ってくれた洋服好き」とか言ってくれると、疲れなんか吹っ飛んでしまいます。

あと、最近は、アウトドアにはまっている夫とともに、余暇は野外料理を楽しんでいます。30 才が近くなってくると、バーベキューというと肉肉肉！という感じではなく、少量の肉で手間ひまかけたメニューのほうが胃にあうようになってきました。最近は、ダッチオーブンという、魔法の鉄鍋を購入し、焼き豚や焼きりんごなど、普段家では作らないような料理に挑戦しています。主人は、次はローストチキンとラム肉の豪快焼きを作ると意気込んでいます。ちなみに外での料理担当は主人専門です。テント設営も主人専門です。片付けも主人専門です。私は、食べる専門です。皆さんもお近くにお寄りの際は主人の野外料理をおもてなしいたしますのでぜひ。

以前はインドア派だったのに、子供がいるためかすっかりアウトドア派です。平日も近くの公園にお弁当を持って出かけたり。おすすめはブランコに乗って真上を見ることです。青空がとてもきれいで癒されます。

そういえば、主人も同研究室の卒業生で、この研究室の卒業生である事を誇りに思っている 1 人です。

最後になりましたが、この 10 年という節目を契機に皆様がますますご健康で、社会基盤計画学研究室のますます発展をお祈りいたします。

椛島さんの結婚式にて

関東支部（左から姫野家、竹林家、柴木家　撮影者主人）

計画学研究室 10 周年記念誌寄稿文

4 期生（1999 年卒業/2001 年修了）　牧野 慈

この度は、計画学研究室創立 10 周年おめでとうございます。

大学院を修了して、早いもので 4 年以上が経ちました。計画研で過ごした 3 年間は、濃密で楽しい日々でした。溝上先生、柿本先生をはじめとして、頼もしい先輩方、かわいい後輩達、そしてなんでも相談できる素敵な同級生に恵まれて、学問で習得できること以上のものをたくさん得た気がしています。

私がこの研究室に入った理由は、学部 3 年次の必修科目であるミニ卒論にさかのぼります。もともと力学が苦手で、溝上先生の土木計画学のきめ細かい授業内容と先生の几帳面な板書の字が密かに好きだった私は、計画研を選択しました。ミニ卒論の内容は、柴木さんの研究の一環でアンケートによる経路選択実験を行い、その選択モデルを構築することでした。複雑な人の行動を数式でモデル化するなんて、計画学って奥深くておもしろい！と感じました。その時から出入りするようになった研究室は、いつでも温かくて楽しい雰囲気が溢れていて、たぶんその時点で、4 年生になったらこの研究室で！という気持ちが決まっていたように思います。研究室配属後は、まだ想像もつかない論文書きと就職活動に不安を感じていたのですが、笑いの絶えない（でも、けじめのある）生活にすぐに溶け込んでそんな不安もすぐに吹き飛んでいました。そして、大学院への進学もこの研究室なら‥とすんなりと意思を固めることができました。3 年間の行事を挙げてみれば、学会発表旅行、愛媛や大分へのゼミ旅行、ソフトボール大会、バーベキュー、阿蘇や天草へのドライブ、数々の飲み会‥等など、思い出したらきりがないのですが、先生との研究の話、励ましあいながら深夜までゼミの準備や論文書きにがんばった日々を含めて、全てが大切な思い出として私の宝物になっています。

大学院の 2 年次には、溝上先生が JICA の派遣でフィリピンの大学へ赴任されました。その前の 1 年間遊びに遊んで研究の先が全く見えていない状態で、しかも、大事な就職活動のさなかだったので、ちょっとした衝撃を受けたのを覚えています。でも、研究は先生に頼ってばかりではいけません。これは、ちょっとした試練と受け止めて、自分達の力で研

究をやり遂げようと私たち 4 人はそれぞれがんばっていたと思います。(遊びの方が生半可ではないがんばりようでしたが‥。) その間の研究は、主に柿本先生にお世話になりました。週に 1 回のゼミでは進展のない研究に先生もさじを投げたい思いだったことでしょう。こんな私たちに最後の最後まで根気強く喝を入れてくださった柿本先生には大変感謝しています。修論提出後のホッとしたその時にダメ出しをされて涙を流したことは一生忘れません。提出さえ出来ればいいやという甘い考えは、社会では通用しないということを教えてくれたのだと、今思えばありがたいお説教でした。また、溝上先生がフィリピンに行かれていた間に、私は貴重な経験をすることができました。観光でもなかなか行く機会がないフィリピンへ研究を兼ねた旅行に行くことができたのです。計算が進まないパソコンを目の前に悶々と日々を過ごしていた時に先生からのお誘いがかかり、ふたつ返事で出かけました。先生のフィリピンライフは、それは優雅で、勉強に行ったつもりなのに、毎日がバカンスのように楽しかったです。研究成果は‥‥イヒヒ。聞いて欲しくないのですが、フィリピンでの生活は新鮮なことばかりでよいリフレッシュになったので、たぶん、その後の研究には好影響を与えたように思います。そんなことよりも、貧富の差や交通事情の悪さを肌で感じるにつけ、先生が現地で教えられた事が、きっと将来、フィリピンのような発展途上国の生活に良い影響を与えるのだろうなぁと感じられたことが大きな収穫だと思っています。

現在、私は社会人として土木の仕事に携わっています。計画研での研究内容とは程遠い業務内容なので、小難しいモデルや専門用語とは無縁の生活です。たまに、簡単な交通量の計算をやったり、聞いたことのある専門用語などを耳にすると、懐かしい気持ちやせっかくの専門の知識を使わないことに淋しさを感じたりします。でも、仕事に対して行き詰まった時の考え方や仕事の進め方や文書のまとめ方、パソコンの知識などは、身になって役に立っています。今から社会に出る学生の皆さんには、研究成果を出すためのそのような何気ないプロセスも大切にしてほしいと思います。

卒業した後も OB 会をはじめ、色んなイベントごとを通して計画研のみなさんとよい関係が続いています。卒業してからの年月を全く感じないほどに、ワイワイと楽しく過ごせることは本当に幸せなことだと思います。これからも、ずっとずっと‥おじいちゃんおばあちゃんになっても、計画研ファミリーとして楽しさも悩みも分かち合える仲間でいたい

ですね。

　それでは、計画学研究室の更なるご発展とみなさんのご健勝をお祈りして終わりにします。（乱筆乱文おゆるし下さい‥）

溝上研究室創設 10 周年おめでとうございます

5 期生（2000 年卒業/2002 年修了）　前川 友宏

溝上研究室創設 10 周年おめでとうございます。現在の研究室の発展があるのも、溝上先生の多大なご苦労があった故かと思います。この 10 年の間に増えた白髪がその苦労一つ一つを物語っているのはないでしょうか。また、溝上先生だけでなく、陰ながら研究室を支え続けている柿本先生のご助力あってこその現在の研究室であると思います。改めまして溝上先生、柿本先生に敬意を表します。

私が研究室へ入った年は、ちょうど柿本先生の研究室が新設された年で、同期のメンバーは例年より大所帯を成していました。また、全員が男性であったこともあり、他とは違う異様な団結力を持っていたメンバーではなかったかと思います。研究活動と遊びとを比較すれば、ソフトボールやコンパなど、遊びの方の比重が（非常に？）高かったかもしれませんが、そのような中でもやる時はメリハリを持ち、夜を徹してでも皆で頑張っていた思い出があります。卒業論文や修士論文前のしんどい時期を楽しく過ごせたのも、研究室のメンバーの明るく楽しい雰囲気があってこそ無事に成し得たものだと思います。

大学入学からの 3 年間は主に既存の理論を学ぶことを主眼としていたのに対し、研究室では、その理論を発展させたり新しいものを生み出したりと、また違った考える力を必要とされ、非常に頭を悩ました記憶があります。しかし、その間に養うことが出来た考える力は、大学で学ぶことがあまり仕事に直結してこない中で、様々な場面で役立っているように感じます。

愛媛大学との勉強合宿

学会に何度か参加させてもらえたことも、非常に貴重な経験ができたと思っています。当時はあまり乗り気ではなく、断る理由を必死に考えていた記憶がありますが、今となっては仙台で食べた牛タン弁当の味や群馬でのホテル探し珍

道中など忘れようにも忘れることができません。また、あのような学識者が集まる場でプレゼンを行い、いろいろなアドバイスを頂けたことは、物事への視野を大きく広げるきっかけになりました。同様に、夏休み期間中に行われる愛媛大学との勉強合宿などでも、柏谷先生や朝倉先生、羽藤先生などから貴重な意見を頂くことが出来たことはありがたかったことですし、他の大学の学生との交流が出来たのも思い出深いものとなっています。

他にも研究室の思い出などを挙げればきりがありませんが、私自身、大学の学生生活を溝上研究室で過ごせたこと、また同期のメンバーと同じ時間を共有できたことは、何事にも代え難い大切な思い出です。

大学卒業後は、関西にあるコンサルタントの株式会社地域未来研究所へ入社し、現在は故佐佐木綱先生も会長を務められた、社団法人システム科学所の方に勤務し、忙しいながらも充実した毎日を過ごしています。専門としている分野が比較的研究室での内容に近いところもあるため、今後も研究室の方にはいろいろお世話になることがあるかもしれませんが、その時はよろしくお願いします。

今思えば、研究室にいる間で学んだこと、体験したことなど全てが財産となって仕事にも活きてきます。様々な経験をし、物事を考え、自分の力として吸収できるのも比較的時間に余裕がある学生の特権だと思います。現在、在室している学生の皆さんも、貴重な学生期間を有意義に使ってもらえたらと思います。

関西へ来て 3 年以上が過ぎ、関西弁にもだいぶ慣れてきました。阪神タイガースへ愛着も湧き出しました。京都にあるおいしい店も何件か分かりました。しかし残念なことに、同じ研究室のメンバーで関西に勤務している人が少人数しかいません…。もし何かの用事でこちらを訪れるようなことがあるならご一報下さい。いつでも駆けつけます。また、いずれ機会があれば研究室のメンバーも含めて溝上先生とゴルフをできたらなと思っています。ゴルフに対して研究活動と同程度の情熱を注いでこられた先生のことです、きっとプロも驚くナイスショットを

大学 4 年の卒業式

連発されることでしょう。私の今後の目標となる意味でも、一度先生のプレーを拝見できればと思っています。楽しみにお待ちしております。

いろいろ文中で脱線しましたが、社会基盤計画学研究室の今後の一層の発展と卒業生および在室している学生の活躍をお祈りしています。

この原稿を書いているうちに、研究室のメンバーと飲みたくなりました…。

柿本研究室のメンバー

社会基盤計画学研究室設立 10 周年に寄せて

6 期生（2001 年卒業）　城島 玲子

溝上先生、社会基盤計画学研究室設立 10 周年おめでとうございます。このたびの寄稿の人選を意外に思いながら（あまりできのよくない生徒だったと思いますので）、研究室生活において楽しかった思い出を中心に書いていきたいと思います。

私は平成 13 年学部卒業ですので、研究室の卒業生では、ちょうど真中あたりでしょうか。私達の代が 4 年生になった際の研究室を決める時、計画研の募集は、たったの 5 人でした。これは、溝上先生が JICA で 1 年間フィリピンに行かれるということで、人数が半減されていたのでした。この難関（？）をくぐりぬけて晴れて計画研となったメンバーが、赤鉾君、竹隈君、豊島さん（旧姓）、星田さん、城島の 5 人です。また、その当時の研究室の先輩方は、M2 が 4 人、M1 が 5 人で、何をしても研究室でまとまって盛り上がり、他の研究室からもうらやましがられたものです。

研究室の思い出といえば、一番に思い出されるのが、私が 4 年だった時の忘年会でしょう。これは、今でも先輩達と集まった際に話題に出てくる伝説の忘年会でした。一次会の投球方法指定クジ付ボーリングで学年対抗勝負をし、二次会の居酒屋で負けた学年がコギャルメイクをするというものでしたが、なぜか、全身タイツの人や、黒ぶちめがね&大鼻をつけた人も出てきて、何が何だか分からない飲み会になりました。今回改めて当時の写真を見直しましたが、おかまバーのママのような化粧の人はいるし、「レイク」の人文字も披露しているし、とても怪しい集団で、御同席された柿本先生にも多大なるご迷惑をおかけしたのではないかなと、社会人になった今、しみじみ感じられます。

普段の研究室生活も、常に誰かが面白いことを言って、笑いの絶えない楽しい毎日でした。オンラインのチャット付大富豪をして大いに盛り上がったり、ある人が授業で席をはずしている間にパソコンの壁紙のアイドルに落書きをしたり、ここでは書き足りないくらいたくさん遊びました。その中でも特に、当時 M2 だった牧野さんは仲良くしていただき、豊島さんと私は、女性 3 人組で何かといっしょに行動していました。午後 3 時になると、売店にアイスクリーム（主にパナップのグレープ味：通称パナグレ）やおやつを買いに行

ったり、プライベートでも温泉に連れて行ってもらったり、楽しい思い出ばかりです。

これだけだと、遊んでばかりだったみたいなので、真面目な話題も一つ。研究室の HP を先輩方が作成した際、「文書力を身につけよう」という事で、一人一日づつ持ち回りで、HP に思った事をなんでもいいのでテーマを決めて文章を書き込むように決めました。この試みは、みんなそれぞれ個性が出ておもしろく、他人の文章を読むのは楽しかったのですが、自分の番になるとネタ探しに困る事が多く、当日になっても、ギリギリまで書けないなんてこともありました。しかし、文章を誉められた時は、とてもうれしく、普通の研究生活をしているだけだとなかなか味わう機会のない喜びを味わいました。これで、きちんと文章力がついていたら、この寄稿もスラスラと書けているのでしょうが、なかなかうまくいかないのが現実です･･･。しかし、研究に関する事だけでなく、人としての基礎力を高めるようみんなで努力した事は、いい思い出となっています。

それと、とても感動した思い出があります。私たちの卒業時の謝恩会での話です。当時溝上先生はまだフィリピンに行かれており、私たち卒業生は他の研究室の学生が壇上で先生に花束を渡したり、お礼の言葉を伝えたりしているのをちょっぴりうらやましく遠巻きに見ていました。すると、あるはずのない計画研の順番になり、M1 だった先輩が突然謝恩会の会場に入ってきて、「溝上先生から卒業生への言葉をあずかってきました」と言い、その言葉を読んでくれたのです。それは、M1 の先輩達が私達卒業生には内緒で溝上先生にメールで言葉をもらっていたもので、大きなサプライズを仕組んでくれていたのでした。その時は驚きと感動で、私達もM2 の先輩達も目がウルウルになり、「本当にこの研究室で幸せだったなぁ」と強く感じました。

現在社会人 4 年目ですが、最近改めて「学生時代のつながりっていいなぁ」と感じられます。社会人になってからの友達もいますが、大学時代の友達は、いつ会っても学生時代のノリのまま話題がつきません。もちろん計画研の先輩、後輩とも、今でも時々メールをしたり会って遊んだりしています。この人脈は、自分の人生における大事な財産であり、これを与えてくれた計画研に感謝しつつ、これからも大事に育てて行こうと思います。

最後になりましたが、溝上先生、柿本先生、これからもお体に気をつけて、「仲のよい計画研」のボスとしてのますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

社会基盤計画学研究室 10 周年に寄せて

7 期生（2002 年卒業）　久保 智規

社会基盤計画学研究室の 10 周年おめでとうございます。私は、平成 13 年度に 1 年間計画研に在籍いたしました。卒業後宮崎県庁に入庁し、現在 4 年目を迎えて、今年の 4 月からは日南土木から日向土木に転勤になり、日々頑張っているところです。計画研の 10 周年にあたり、私が在籍した平成 13 年当時の思い出を少しだけ書かせていただきたいと思います。当時の計画研の同期メンバーは、溝上研が糸瀬君、宮君、内さん、平野さん、私の 5 名、そして柿本研が有吉君、石丸君、佐々木君、副島君、原口君の 4 名の計 9 名で、M1、M2 の先輩方を含め全員が個性の強いメンバーだった思い出があります。

私が計画研に入った 4 月は溝上先生がまだフィリピン出張に行かれており、主不在のなか、約 1 ヶ月を過ごしました。そして、溝上先生が帰ってこられてから、7 月までは私が公務員を目指していたということで、大きな課題もあえて与えていただかず、公務員受験に集中させていただきました。今の自分があるのは溝上先生の御配慮のおかげであるのはいうまでもありません。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

さて、計画研に入って最初の思い出は早速、新歓コンパで起きました。今でもおそらく研究室のどこかに写真が残っているとは思いますが、宴もすすみ、みんな酔っぱらってきたときにビールジョッキに唐辛子を入れての飲み比べが始まりました。真っ赤になったビールジョッキを飲み干した人のその後は想像に難くないでしょう。その後朝まで眠りについた人や看病に追われた人、みなさん、それぞれあの時の思い出があるのではないでしょうか？

また、研究室の飲み会では酔っぱらうといつも糸瀬君とともに調子に乗って暴言ばかり吐いていたような気がします。そんなこともあってか、ゼミでは、飲み会で暴言を吐く糸瀬君と私がいつも怒られ役になっていたような気がします。(ただ単にレポートの出来が悪かったからだけかもしれませんが…)

卒論でもいくつかのドラマがあったので、ご紹介したいと思います。まず 1 つは、卒論発表まで残り 1 ヶ月ほどとなったある土曜日の朝、突然日高さんから電話で、『溝上先生が

今から卒論発表の予行練習をするとのことだから、今すぐ研究室に来るように』と連絡を受けました。そこですぐにみんなに連絡をとり、研究室に行きました。溝上研では、内さんと平野さんは日頃からコツコツ進めていたので発表する資料は当然そろっており、予行練習は難なく終了したのですが、私と宮君、糸瀬君の 3 人は、追い込まれないとしない性格だったので、当然資料が揃っているはずもなく、しどろもどろで発表したり、正直に『準備が出来ていません』と言い、怒られたりと本当に恥ずかしい思いをした一日でした。

もう一つは、卒論パネル発表の前日から朝にかけての出来事です。いつものごとく、最後の追い込み(もちろん徹夜です)を男 3 人でやっていて、ようやく資料ができ、当日の朝に原稿を打ち出そうとしたら、Mくんのパソコンが突然フリーズを起こしてしまい、出力ができなくなってしまったのです。そんなところに溝上先生が来られて、一緒になってパソコンの修復を手伝ってくださいました。(当然、卒論の原稿がまだ終わっていないとは先生には言えませんでしたが…)そして、先生のお力添えがあり、無事に原稿の出力ができ、卒論発表を終えることができたのでした。現役生のみなさんの見本となるものではありませんが、それは、それはスリル満点の卒論発表になりました。

そして、計画研での 1 番？の思い出となったのは 11 月の遠歩大会です。研究室のみんなで遠歩に参加したのですが、自分は糸瀬君と共に熊大に向けて懸命に歩いていました。日頃の運動不足がたたったのか、大津町付近まで来たときには 2 人とも足を引きずりながら歩いていました。そして、どうにか武蔵塚あたりまで来たときに事件が起きたのです。自分たちより後方にいた宮君がリタイヤして車に乗り、『糸瀬君、久保君頑張って！』と手を振り自分たちを追い越して行ったのです。2 人の目には車に乗っている宮君が満面の笑みを浮かべているように映りました。宮君曰く、あの時は 2 人を激励するために声をかけたのだそうですが…。そして、宮君の激励？を受けた 2 人は 12 時間以上かけて何とか赤門までたどり着くことができました。ゴールしたときは言葉に言い表すことのできないくらいの感動を覚えました。

以上、知っている人しか分からないような思い出話を長々と書かせていただきましたが、今でもみんなと集まるときは当時の思い出話で話が尽きません。そして、すばらしい先生、先輩、仲間に出会えたことは今の自分にとって、大きな財産となっています。また、ゼミや卒論の徹夜や遠歩等で培った「頑張ればどうにかなるというプラス思考」は今の仕事で

も十分生きています。

現役生のみなさんも今の時間・出会いを大切にし、自分の夢に向かって頑張ってください。そして、最後になりましたが、計画研の伝統が今後 20 年、30 年と引き継がれ、益々、ご活躍をされることを祈願しております。

溝上先生、研究室10周年おめでとうございます

9期生（2004年卒業）　池田 香

先生とは、在学中よりも卒業してからの方がお話しする機会が多くなったように思います。何事にもはっきりとしたお考えをお持ちなので、真面目なお話はもちろんですが、ちょっとした世間話も大変楽しく聞かせていただいております。また、いつも卒業した私たちのことを気にかけてくださり、本当に嬉しく思っております。

溝上先生の研究室へ配属が決まった当時、研究室には楽しい先輩方やかわいらしい留学生がいて、一人ひとりが大変個性的でした。まだ慣れない私は、先生にどれほど厳しいことを言われるのだろうかと緊張していたのを覚えています。私個人的には、研究室で過ごした1年間は就職活動や卒業研究などに追われる日々で、とても慌しく過ぎていったように思います。気持ち的にゆとりのない時期ではありましたが、そんな中で、勉強はもちろんのこと、バーベキューや西部支部発表後の観光など、研究室の皆さんと過ごした時間はとてもいい思い出になっています。

学生の頃を振り返ってみると、私は、勉強面も遊びの面でもあまりにも平凡すぎて、積極性が足りなかったなと思うことが殆どです。今だから言えることですが、私は当時、研究室の独特な雰囲気が苦手で、なかなか馴染むことができませんでした。その頃の私は、研究室内でただ一人、将来の方向性が明確ではなく自信が持てずにいましたので、研究室のメンバーともどこか距離を置いて割り切ったお付き合いをしていたように思います。あの時、先生ともっとお話をしていろいろと相談をしていれば、多くのヒントを得ることができたのではないかと思います。先生とも自分自身ともきちんと向き合えていなかったことを今になって後悔しています。自分が置かれている環境に馴染もうとせずに、その場の人付き合いをも疎かにしてしまっていたことは、私にとって大きな反省点であり、今の私にとっても大きな課題となっています。今、溝上研究室は随分メンバーが増えて、とても賑やかだと伺っております。先生を含め、皆さんとても和気藹々とされているご様子を耳にしては大変羨ましく思っております。

私は現在、地元の建設会社で新規事業立ち上げのサポート役として働き始めて2年目に

なります。「研修」といった教育を受けたわけではありませんし、直属の先輩がいるわけでもありませんので、殆ど手探り状態です。そこで学べていることもあるとは思いますが、まだ胸を張って仕事について語れるまでには至っておりません。溝上先生には、お会いする度に「まぁもう少し頑張ってみなさい」というお言葉をいただきます。そのさり気ない励ましのお言葉に、私は勇気付けられています。本当に感謝しています。

また、同級生の友人たちが、仕事に苦労しながらも遣り甲斐を持って頑張っている姿を見ると、大変刺激になりますし羨ましくも思います。やはり、自分の進む道は納得行くまで模索するべきだと強く感じているところです。社会人とはいえまだ 2 年目ですので、自分の無力さを実感するのは当たり前でしょうし、迷いがあるのも当然かもしれません。だから、せめてこれまで中途半端だった自分を改め、一日一日を大切にして意味のあるものにしていきたいと考えております。

現在、私には目指しているものがあり、そのために挑戦していることがあります。学生のときに自分の方向性をしっかり固めきれなかった分、今真剣に考えて、これから精一杯動いていこうと思っています。現実には厳しい面も多々ありますが、自分が納得できるまでやってみます。先生にはこれからもいろいろとご心配をおかけするかとは思いますが、私なりに前進してまいりたいと思っておりますので、どうか暖かかく見守っていてください。また、これからも研究室には遊びに行きます。

最後に、溝上先生も忙しさが増していることと存じますが、お体にはくれぐれもお気をつけて、いつまでもお元気で頑張ってください。先生の今後益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

平成 17 年 10 月

研究室の思い出

10 期生（2005 年卒業）　府内 春奈

私は平成 17 年 3 月に熊本大学を卒業し、4 月より社会人となり、今は道路整備に携わっています。まだ仕事を始めたばかりなのですが、学生の頃のことを懐かしく思い出すことがあります。特に研修室に配属されてからの一年間は、それまでの勉強とは違い、強く印象に残っています。それまでは、出された課題を解くことが学校の勉強でした。しかし、一年をかけて卒業論文に取り組む研究室での勉強は、自分で課題を見つけ出し、解くために必要なものはなにかを考えながら取り組むというもので、今までの勉強とは少し違うものでした。いろいろな作業を計画的に行わねばなりませんでしたが、なかなかできずに、先生や先輩方にたくさんの御指導をいただきました。

そのときに指摘を受けたところが、仕事を持つようになった今、自分に足りない能力なのだなぁと改めて思います。たとえば、私はひとつの作業を始めてしまうと、他のことが手につかなくなってしまうところがありました。そのため、同時並行で作業を進められるようにならないといけないという指摘を受けたことがありました。それは、現在仕事においても同じで、仕事を効率よく期限内に進めるためには、改善しなければならないところだと感じています。私は、実際自分が働くまで、仕事というと、与えられたことをこなしていくようなイメージを持っていました。しかし、実際に働いてみると、自主的に行動することが多くあり、卒業論文を進める上で受けた指摘は、仕事の上でも大切なことでした。

また、自分の課題にばかり興味がいってしまい、ほかのメンバーの研究についての勉強をしないことについても指摘を受けたことがありました。しかし、現在、仕事においては、職場の先輩方の業務のことも興味を持って勉強するように心がけています。自分の業務を行なうだけでは気づかなかった発見もあり、たくさんの知識を身につけることができます。また、人の業務内容を把握することで、進んで協力でき、職場の業務処理の効率を上げることができます。

そして、指摘を受けたところ以外にも、卒業論文を書くことで、なにか作業を行ううえでの自分の長所や短所を新たに発見することができました。このように、研究室に在籍し

た一年間に、自分に足りない能力を知り、社会人としての心構えを教わった気がします。

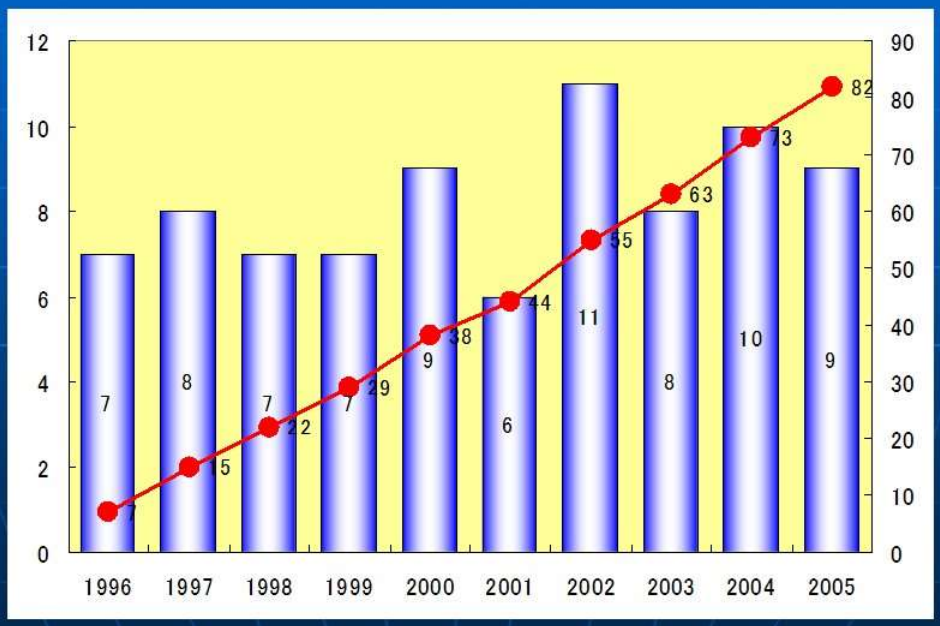
また、研究室のメンバーと過ごした時間も、とても貴重な時間だったと感じています。私は、学部 4 年生時に就職を希望しており、就職試験のための勉強をしていたのですが、なかなか成績も上がらず、不安になった時期もありました。しかし、研究室のメンバーがそれぞれ自分の希望する進路に向かって努力する姿を見て、ずいぶんと元気付けられました。自分と同じように就職を希望する人たちとは、情報を交換し、協力しあって就職活動を行い、とても心強かったです。それだけでなく、悩みを相談したり、何気ない会話を交わすことは、卒業論文や就職活動の息抜きにもなりました。自分の将来を決める大切な時期に、研究室の方々と時間を共有できてよかったなぁと思います。

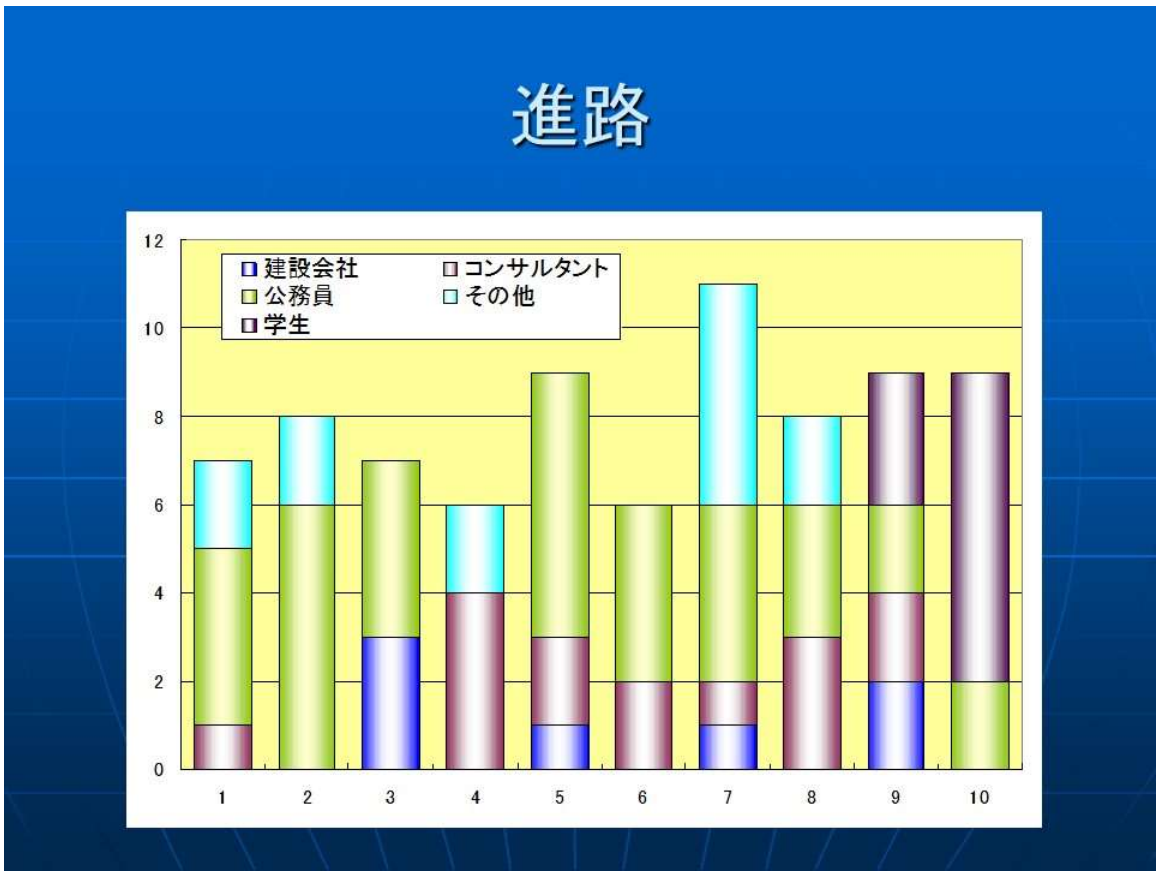
私は、この研究室で教えていただいたことをひとつひとつ実践して、仕事を行なっていきたいと考えています。現在、厳しい社会情勢や多様な価値観に考慮して、社会基盤整備を進めることが求められているといわれています。コストを抑えて、さまざまなニーズに対応するためには、たくさんの工夫が必要です。そこで、いろいろな視点から物事を考えながら仕事に取り組み、自分から進んで多くのことを学び、仕事に生かしたいと考えています。さまざまな人の暮らしがもっと元気になるような社会基盤整備に携わり、たくさんの人のお役にたてるように、これからもっとがんばりたいです。

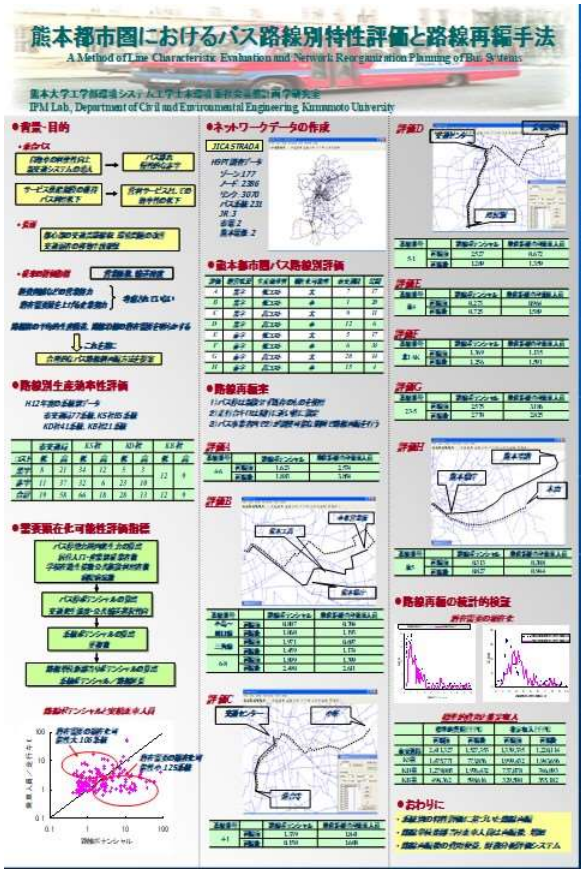
計画研10周年記念OB会

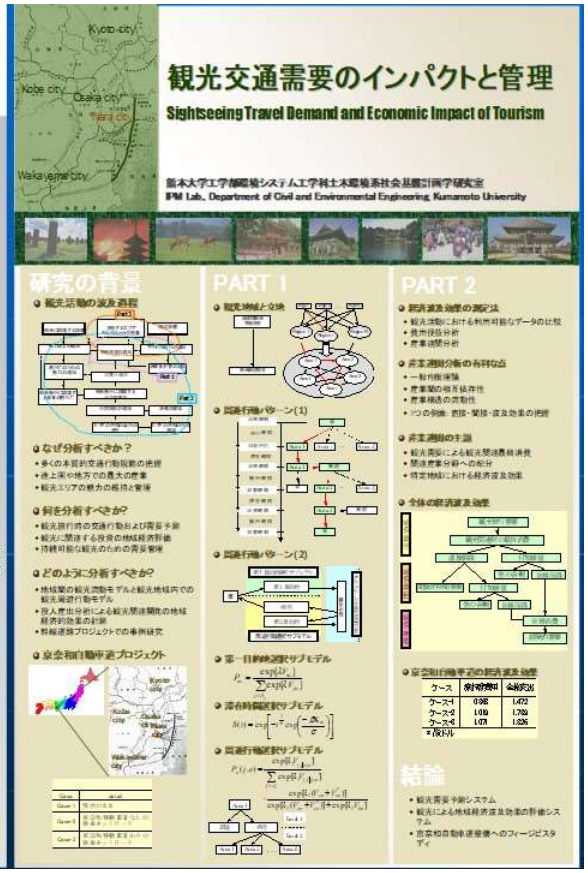
日時：2005年7月30，31日
於：阿蘇プリンスホテル

卒業生の推移

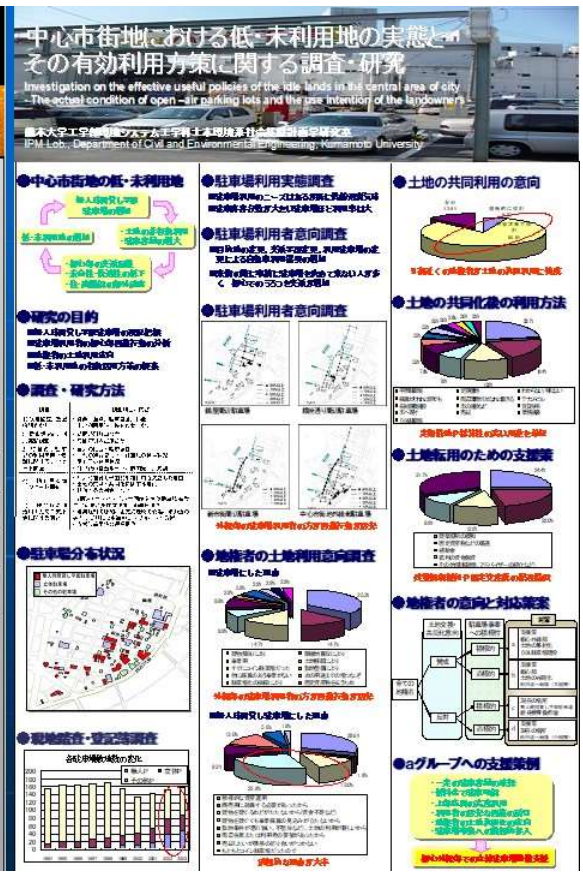


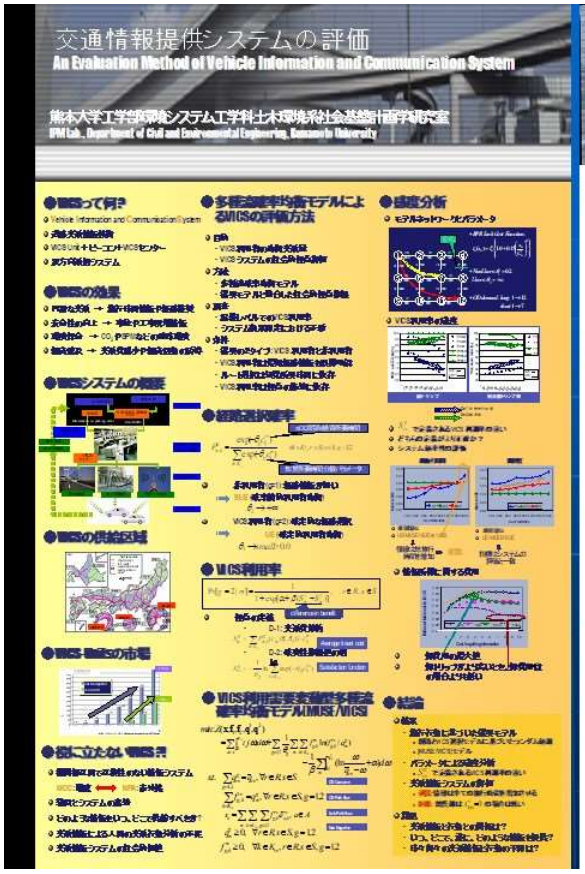

進路
建設会社
コンサルタント
公務員
その他
学生
0
2
4
6
8
10
12
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

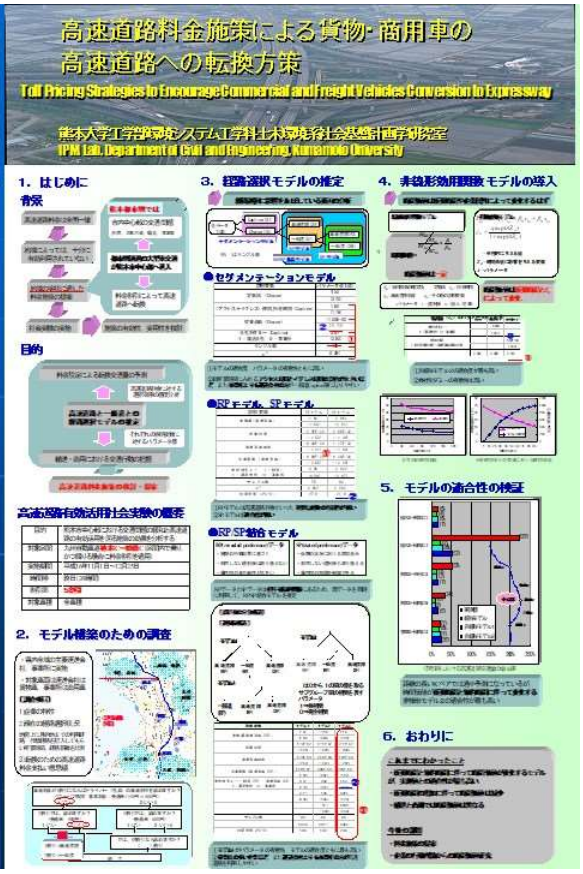

熊本都市圏におけるバス路線別特性評価と路線再編手法
A Method of Line Characteristic Evaluation and Network Reorganization Planning of Bus Systems


観光交通需要のインパクトと管理
Sightseeing Travel Demand and Economic Impact of Tourism
研究の背景
PART 1
PART 2
結論

時間帯別交通量配分とミクロシミュレーションを結合した
動学的ミクロ交通流分析法の移転可能性
A Practical Method Combined with Macro and Microscopic Approaches for Micro-Dynamic Traffic Flow Analyses
IPM Lab., Department of Civil and Environmental Engineering, Kumamoto University
背景と目的
動学的ミクロ分析フロー
NETS出力からの出力
リンクコスト関数の推定
対象地区
適合性の検証
NETS出力モデルの作成
現況再現の検証
将来予測流入量
おわりに
動学的ミクロ分析法とは？


中心市街地における低・未利用地の実態と
その有効利用方策に関する調査・研究
Investigation on the effective useful policies of the idle lands in the central area of city
-The actual condition of open-air parking lots and the use intention of the landowners-
IPM Lab., Department of Civil and Environmental Engineering, Kumamoto University
中心市街地の低・未利用地
研究の目的
調査・研究方法
駐車場分布状況
現地踏査・登記簿調査
駐車場利用実態調査
駐車場利用者意向調査
駐車場利用者意向調査
地権者の土地利用意向調査
土地の共同利用の意向
土地の共同化後の利用方法
土地転用のための支援策
地権者の意向と対応策案
aグループへの支援策例


交通情報提供システムの評価
An Evaluation Method of Vehicle Information and Communication System
熊本大学工学部環境システム工学科土木環境系社会基盤計画学研究室
IPM Lab., Department of Civil and Environmental Engineering, Kumamoto University
VICSって何？
VICSの効果
VICSシステムの概要
VICSの供給区域
VICS市場の市場
多段階確率均衡モデルによるVICSの評価方法
経路選択確率
VICS利用率
結論
VICS利用率を考慮した確率均衡モデルによるVICSの評価
感度分析
モデルネットワークとパラメータ
VICS利用率の感度
結論


高速道路料金施策による貨物・商用車の
高速道路への転換方策
Toll Pricing Strategies to Encourage Commercial and Freight Vehicles Conversion to Expressway
熊本大学工学部環境システム工学科土木環境系社会基盤計画学研究室
IPM Lab., Department of Civil and Environmental Engineering, Kumamoto University
1. はじめに
背景
目的
高速道路有効活用社会実験の概要
2. モデル構築のための調査
3. 経路選択モデルの推定
セグメンテーションモデル
RP モデル、SP モデル
RP-SP統合 モデル
4. 非線形効用関数 モデルの導入
5. モデルの適合性の検証
6. おわりに